

たとえばあなたが派遣社員なら、堅い印象のシャツやスーツより、ニットやチュニックなど、柔らかい雰囲気の服を選んでいいだろうか。

だが、それは「今」のポジションに合った服装。数多くの女性にアドバイスしてきたイメージコンサルタントの高野優梨さんによれば、カラフルだったり、柔らかな印象の服は、アシスタントのファッションとしては悪くないが、仕事を安心して任せられる頼もしいイメージには乏しい。実力があるのに、なかなか認められない人の中には、将来を考えた服装をしていない人が多いという。

キャリアアップを目指すなら、なりたいたい自分がするだろうファッションを前倒して着ることが、イメージ戦略のキモなのだ。

凛とした印象と知性

そんなときに万能なのが、白いシャツ。

「白には清潔感と凛とした印象があります。知性や教養があるイメージも。私はキャリアアップを目指す女性のイメージコーディネーターには、必ず白のシャツを1枚、加えるようにお勧めしています」

高野さんがアドバイスした女

白シャツで キャリアアップ

スーツやジャケットに代わる“正装”

白シャツは買うのも、着るのも勇気がいる。「手入れが面倒」「リクルーターつばい」と敬遠しがち。だが、不況だからこそ白シャツにこだわる女性たちもいる。たった1枚で信頼感や責任感を演出できるアイテムだから。



高野優梨さん
グローバルスタイル代表
イメージコンサルタントとして、「好きなものと似合うものは違う。白シャツも同様。試着時に携帯で写真を撮ってみると、客観的に判断しやすい」とアドバイスする

性の中には、白シャツを着る機会を増やしたことで、以前より上司から意見を求められるようになり、契約社員から正社員になったケースもあるという。

「女性が働きやすくなったといっても、まだまだ男性優位。信頼してもらうには、男社会のルールに従った方が仕事スムーズに進みやすい。仕事服として男性に馴染みがある白シャツは、女性のビジネスファッションに取り入れやすいアイテムなのです」

決まった日に、必ず白シャツを着る女性たちもいる。社長としてファッション系のPR会社をそれぞれ経営している先浜万里子さん(36)と橋口麻紀さん(43)だ。

二人が友人になったのも、白シャツがきっかけだった。先浜さんも橋口さんも独立前の会社員時代から、良い緊張感を保つために、月曜日にあたった1日に白シャツを着るという習慣を続けていた。それをたまたま会話したときに知り、意気投合したという。

二人は、

「白シャツを着こなせたら、一人前の女性」と口を揃える。

「仕事で大切なのは、信用され



霜島真紀子さん
パーソナル
スタイリスト

おすすは霜島さんも着る「ナラカミーチェ」シャツブランドのデザインを豊富に、さらに今秋風に

ること。相手からどう見られるかを意識してファッションを選ぶことはとても大切です。私はクライアアントと初めて会うときは、必ずといっていいほど白シャツを着ます。逆に相手も白シャツを着ていると、自分にも心地よい緊張感が生まれます」と先浜さんが言えば、橋口さんもこう話す。

手間かかるからこそ

「白シャツを着ると、新年の始まりのようにニュートラルな気分になります。その新鮮な気持

ちで仕事に取り組みのいいいでしようね。相手にも良い緊張感が伝わって、いい雰囲気になることが多いんです」

汚れやすい白シャツは、洗濯やアイロンの手間がかかる。面倒と敬遠しがちだが、手間がかかるからこそ、ビジネスファッションとして威力を発揮する。白シャツを美しく着るために準備をしているということは、仕事を段取りよくこなす人というイメージにもつながるからだ。

先浜さんは合わせるアクセサリーひとつで、まるで違う印象に変えることができるのも、白シャツの魅力という。

「まずは手頃なカジユアルブランドから試してもいいと思います。慣れてきたら、老舗のシャツブランドで買ったたり、百貨店でオーダーメイドをして欲しい。体にピシッと合った白シャツを着ると、人前での自信が違ってきます」

若さをカバーする

シンプルでごまかしがきかないからこそ、TPOに合わせて、素材、シルエット、ディテールなどを選ぶことも大事、と先浜さんはアドバイスする。

橋口さんも、明日は白シャツを着る、という晩には、姿勢を

久保沙織さん
ヒューマンリソシア
通信営業部 Webディレクター
「VEAUTY」Webディレクターとして、広告営業もする。「白シャツを着ると、この人なら任せられるとクライアントに安心感を持ってもらいたい」



先浜万里子さん/ 凛 代表取締役(右)
橋口麻紀さん/ モードゥス ヴィベンディ代表
白シャツへの想いが、なかなか周囲に伝わらないのが残念という二人。ファッションブランドのPR担当だけあって、最新の白シャツ設備で盛り上がることもある

いうときだ。
「私が白シャツを着ていると、周囲も勝負の日と気づくらしく、「がんばれよ」と声をかけてくれることもあります」

似合う形は襟で選ぶ

選ぶときに重視しているのは、素材。形状記憶など手入れがしやすく、薄く透けないものを選んでいく。華奢な体形のため、体にフィットするストレッチタイプも持っている。

「大きすぎるとだらしく見えるので、必ず試着して、肩や袖の長さなどをチェックします。きちんと感が欲しいので、デパートで買うことが多いですね」
では、今年の流行を取り入れつつ、ビジネスに生かせる白シャツの選び方は？

「大人の女性を演出するには、生地に光沢や織りのある技アリのシャツを選ぶことです」

と新宿高島屋でパーソナルスタイリストとして顧客の相談にのる、ファッションレスキュー所属の霜島真紀子さん。

今年にはシャネルの映画が公開になったこともあり、デコラティブなデザインが人気だ。たとえば、胸元にラッフルレースがあるデザインを選ぶと、凛々しさと女らしさを演出できる。胸元にボリューム感が出るので、胸が小さい人や体が薄い華奢な人にも向いている。

シャツの形が似合っているかどうかは、襟の形と顔の大きさや形で見極めよう。下ぶくれの人は襟が大きめのタイプを選ぶと、顔と襟の対比で顔が小さく見える。首が短めの人には襟の幅が細めのものにする、すっきり見える。首が長めの人には、スタンドカラーを選ぶといい。

最後に白さを保つコツを霜島さんに聞いてみた。

「白シャツの大敵、汗染みを防ぐには、着た日のうちに洗濯し、陰干しすること。ポリエステル30%、綿70%の混合は家で洗濯しやすいですし、光沢感もあるので、おすすめの素材です」

ライター 角田真穂